

自立を支援する まごころ製品

日々の暮らしには、お金が必要で、安定した収入があれば、生活する上での安心にもつながります。しかし、障がいのあることで仕事ができない場合、日々の生活費は障害年金による収入のみとなり、障がいの程度によっては障害年金が受け取れない場合もあります。これでは、とても安心できる生活を送ることができません。このような状況から国は、

平成25年に障害者優先調達推進法を施行しました。この法律は、県や市など地方公共団体に對して、障がい者支援事業所が供給する物品などの受注機会を確保し、障がいのある人の自立促進を図るようにするためのものです。市内の障がい者支援事業所では、さまざまな物品が作られています。パンやクッキー、弁当などの食品、バッグやアクセサリー、手すき和紙など

の工芸品、ほかに焼酎や生花など、多岐にわたり真心をもって作られたこれらの物品を「まごころ製品」と呼んでいます。

このまごころ製品の売り上げは、障がいのある人にとって貴重な収入になります。それと同時に、まごころ製品の生産活動が進むと、身体の機能訓練となるばかりか、やりがいや、生きがいなどの達成感や充実感を得ることもできます。また販売活動は、買い物との触れ合いもあり、障がいのある人の社会参加を促し社会貢献にもつながります。市内で作られている多種多様なまごころ製品を知り、そしてそれらを積極的に購入することが、障がいのある人の自立した生活への支援になるのです。

市も、まごころ製品の販路拡大キャンペーンとして定期的にイベントを催し、販売を支援しています。とても好評です。どの品も手頃な価格設定なので、気軽に購入できます。詳しくは、それぞれの障がい者支援事業所に直接お問い合わせください。

| | | | |
|--|---|--|---|
|  <p>アトリエ夢工房 ☎52・3777 パン、クッキー、ラスクなど</p> | <p>紹介します まごころ製品</p> | <p>昭和学園 ☎52・4686 卵、絵はがき、野菜、とうかご、無添加排油石けん、エコバッグなど</p> |  |
| <p>緑の里 ☎42・7077 野菜、弁当、生花など</p> |  <p>ふくとぴあ 障害福祉サービスセンター ☎34・3338 アクリルたわしなど</p> |  <p>福間サンテラス ☎35・8760 クッキー、パン、手すき和紙製品、焼酎、塩、歯磨きジェルなど</p> |  |
|  <p>まりものうどん ☎62・6760 弁当、うどん、おにぎりなど</p> |  <p>まりな ☎43・6650 ごぼう、お米、弁当など</p> |  |  |

3部 地域×愛情

幸せになろう

差別や偏見がなく、一人一人の多様性が尊重される社会に。お互いに助け合い、協力し合う社会に。

不屈の精神と、福×2の愛情で、

共に生きる社会の実現に向けて、

何かできることはないのでしょうか。



市役所のロビーにアイマスク姿で立つ小山達生市長。車椅子体験とアイマスク体験をしました ●撮影日 11月1日



- ①市役所を出発 ②市役所前の交差点 ③傾斜のある歩道 ④J A福岡支店前の交差点 ⑤駅前広場 ⑥1階エレベーター乗降口 ⑦2階エレベーター乗降口 ⑧改札口 ⑨ミニバスのバス停 ⑩車いす対応の車に乗る ⑪車内 ⑫津屋崎千軒なごみ前 ⑬豊村酒造前 ⑭藍の家 ⑮市役所玄関前 ⑯総合案内 ⑰ロビー ⑱福祉課窓口に着座 ⑲職員と応対

車椅子体験コース

市役所→JR福岡駅→(ミニバス乗車)→
教安寺前→津屋崎千軒なごみ→藍の家

アイマスク体験コース

市役所玄関→総合案内所→ロビー→福祉課窓口
●体験実施日 11月1日

第3部 幸せになろう 第1章 地域のマンパワー

車椅子とアイマスクでまちを検証

「障がいがある人の気持ちになって考える」と口にするのは簡単です。しかし、体験して初めて実感としてわかることもあります。そこで小山市長に体験してもらいました。また、体験コース近くの商店主や、行政関係者などに話を聞きました。

とでもスムーズでした。福岡駅から車椅子のままミニバスに乗りました。事前予約をすれば、利用可能です。何の問題もなく教安寺前に到着。ここから藍の家へと向かう千軒通りも段差なくスムーズで、藍の家に無事到着することができました。

市役所に戻る市長に、次はアイマスク体験してもらいます。慣れた場所のはずですが、白杖を持ち右往左往。ガラスにつかりそうになります。何とか玄関に入ると総合案内係員が気づき、手を差し伸べてくれました。人がいるロビーを抜け福祉課までは係員の付き添いが必要は無理でした。体験を終えた市長は「車椅子も段差が怖かったが、アイマスクはもっと怖い。自分では何もわからない」と語っていました。誰もが安心して暮らせる社会になるには、地域が、そして人が頼ります。

助者なしで市役所から駅へ。最初の難所が迫ります。交差点です。青信号と同時に渡りだし、点滅信号で渡り終えました。次の難所は歩道。新しく段差のない歩道もありますが「せつかつく体験だから」とあえて傾斜や亀裂がある歩道を選びます。「おっと」と声が出る市長。歩行者には気にならない傾斜が車椅子に悪影響を及ぼします。慎重に直進しJA前の交差点まで来ました。すぐ横をバスが走っていきました。市長はぎょっとした表情を見せます。

駅前広場では、歩道との僅かな段差につまずきます。少し下がって勢いをつけてみたり、片輪をつ斜めにして乗り越えようとしたりするものの、乗り越えきれず悪戦苦闘です。見かねた市民が手助けしてくれました。

新しく整備された駅舎は、エレベーターから改札口、そしてホームへと、

介 役所から駅へと車椅子で向かう市長。最初の難所が迫ります。交差点です。青信号と同時に渡りだし、点滅信号で渡り終えました。次の難所は歩道。新しく段差のない歩道もありますが「せつかつく体験だから」とあえて傾斜や亀裂がある歩道を選びます。「おっと」と声が出る市長。歩行者には気にならない傾斜が車椅子に悪影響を及ぼします。慎重に直進しJA前の交差点まで来ました。すぐ横をバスが走っていきました。市長はぎょっとした表情を見せます。

駅前広場では、歩道との僅かな段差につまずきます。少し下がって勢いをつけてみたり、片輪をつ斜めにして乗り越えようとしたりするものの、乗り越えきれず悪戦苦闘です。見かねた市民が手助けしてくれました。

新しく整備された駅舎は、エレベーターから改札口、そしてホームへと、



▲地域の生活と密接に関係している人たちが、特集の趣旨に賛同して集まってくださいました。左から順に、衛生利忠JR福岡駅長、小山市長、山崎清岡工芸会会長、高島亮一観光協会会長 ●撮影日 11月11日



第3部 幸せになろう 第2章 ふくつの愛情

だいじょうぶ。共に生きよう! 幸せになろう!

福津
LOVE

不屈
の精神

福×2
の幸せ

一人だけの幸せより、二人での幸せのほうがずっと楽しく、幸せも2倍になります。福津の人がみんな幸せだと、もっとも楽しく幸せになります。目指すのはみんなが幸せな共生社会。不屈の精神で、福×2の幸せになりましょう。障がいのある人と、その家族に持ち寄ってもらった大事な思い出の写真を紹介します。また、子育て支援センターに来ていたお母さんたちも特集の趣旨に賛同し、写真撮影に協力してくれましたので紹介します。福津は愛情にあふれています。



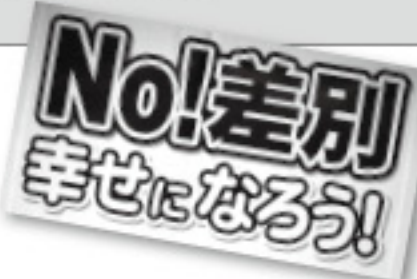
各質問では、該当する番号に○をつけてください。

Q1. 県や市などの役所や、会社やお店などの事業者が、障がいのある人に対して不当な差別をすることを禁止した障害者差別解消法が今年4月に施行されました。知っていましたか。

- 1. 知っている
- 2. 知らない

Q2. 障がいを理由とする差別をなくすためには、何が必要だと思いますか。一つ選択してください。

- 1. 障がいに理解を深めるための、市民への啓発活動
- 2. 障がいに理解を深めるための、事業所への啓発活動
- 3. 障がいについて、学校教育で学ぶ機会の確保
- 4. 障がいのある人と障がいのない人との交流の場
- 5. 市独自の障がい者差別禁止条例の制定
- 6. その他()



Q3. 住み慣れた地域での共生社会を実現するためには、何が必要だと思いますか。三つ選択してください。

- | | |
|--------------------------------|-------------------------|
| 1. 障がいに理解を深めるための啓発活動 | 2. 障がいに関する相談支援窓口の充実 |
| 3. 在宅による障がい福祉サービスの充実 | 4. 親が亡くなった後の居住地の確保 |
| 5. 生活の安定のための年金や手当の充実 | 6. 障がいに専門的に対応できる医療機関の充実 |
| 7. 障がい児への早期の療育指導 | 8. 障がいに応じた就労支援の充実や雇用の確保 |
| 9. 障がいのある人に配慮した公共施設や道路のバリアフリー化 | 10. 災害時の避難方法の確立と場所の確保 |
| 11. その他() | |

Q4. 障がい者の人権などで思うこと、感じるがありましたら、御記入ください。

御協力ありがとうございました

※特集の感想や今月号の感想などは、33ページにもはがきがありますので御利用ください。

障

がいの有無にかかわらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し、支え合う共生社会を私たちは目指しています。障がいがあるからといって社会から排除されたり差別されたりすることは、あってはいけません。

なぜこのような社会を目指すのでしょうか。それは残念なことには、現在でも障がい者差別が残っているからです。今回の広報ふくつでのアンケートにしても、平成26年に実施した市の障がい者実態調査にしても、差別を受けたことがあるという残念な結果が出ています。内閣府が平成24年に行った「障がい者に関する世論調査」でも同様の結果が出ています。

今年4月に障害者差別解消法が施行されました。県や市などの役所や、会社やお店などの事業者が、障がいのある人に対して不当な差別的取り扱いをすることを禁止しています。

そして厚生労働省は11月11日、入所施設で集団生活をする障がい者の約1割を平成29年度から4年間で施設退所させ、自宅やグループホームなど地域での暮らしに移れるようにする、との

目標を示しました。共に暮らす社会は、もう目前です。

福津市は平成19年にユニバーサルデザイン計画を策定し、一人一人の心掛けで、いつでもどこでも優しさを実行できる「心のユニバーサルデザイン」のまちづくりを大切にしてきました。平成27年に策定した障がい者計画でも、共生のまち「ふくつ」を理念としています。

市内には今年3月現在で3021人の障害者手帳所持者がいます。しかし、この人たちだけの問題ではありません。私たち一人一人が人権問題として取り組むべき課題です。

障がい者に優しい社会を実現していくには、もちろん時間もかかるでしょうし、困難もあるかと思いますが、そして、人それぞれに思いや考えもあると思います。ぜひ皆さんの意見を聞かせていただきたいと思います。共に生きる社会は決して行政だけの力でできるものではありません。皆さんの力が必要不可欠です。市民と行政がいっしょになって、よりよい福津市、お互いの個性と人格を認め合いながら、共に幸せになる福津市を目指しましょう。

声に耳を傾け 幸せを感じる 福津市に

福津市長 小山達生

第3部 幸せになろう
第3章 参画のまちづくり

知的障がい者支援施設「津久井やまゆり園」で7月26日、凄惨な事件が起きました。19人の尊い命が無残に奪われ、27人という多くの人が負傷しました。なすすべもなく命を奪われ、傷つけられたかたがたの無念さや、悲しみと悔しさに今でも体が震えます。それでもようやく、つい先日、しめやかにお別れ会をすることができました。被害に遭われた御家族の皆さんは、まだまだ大きな悲しみと悔しさを心に抱えています。少しづつ前に踏み出そうとしています。

社会に衝撃を与えたこの事件は、当事者である私たちのみならず、国内外の障がいのある人や、その御家族、福祉施設関係者の心に深い傷を残しました。福津市に住む皆さんにも、不安や戸惑いが広がったのではないかと思います。私は、今の社会は決して捨てたものではないと思っています。しかし悲しいことに、障がいのある人を排除しようとする意識がまだに社会の根底には存在している気がします。

障がいのある人を見て、「怖い」とか「かわいそう」とか言う人がいます。無意識に出る言葉かもしれませんが、その発言そのものが差別だということに気がついていないようです。障がいがあることは怖いことでしょうか。障がいがあると、本人は不幸であり、周りの家族も不幸なのではないでしょうか。健常者視点だと思います。ある御遺族のかたから、メッセージをいただきました。「これまで家族全員で姉を守ってきました。守っていたようで、実は姉に我々家族が支えられていました。ハンディのある姉でしたが、私たちにとって掛け替えのない大切な家族でした」。私たちは皆、障がいを個性と受け止めて、前向きに暮らしています。

人は生きていること自体に価値があります。それが社会の共通認識です。無知は差別と偏見を生みます。障がいのある人もっと知ってもらおうことで、差別と偏見をなくしていけたらいいなと思います。人にとって何が大切か、障がいのある人から教わることも大きいと思います。知ることが出発点です。

知

知ることが差別をなくす出発点です

津久井やまゆり園家族会
会長 大月和真さん

大月さんの息子、寛也さんは事件当時、容疑者が立ち入らなかった様にて無事でした ●取材日 10月19日

第3部 幸せになろう 終章 出発点

8113293

〒811-3293
福津市
あまゆり園

福津市役所広報秘書課
広報広聴係 行

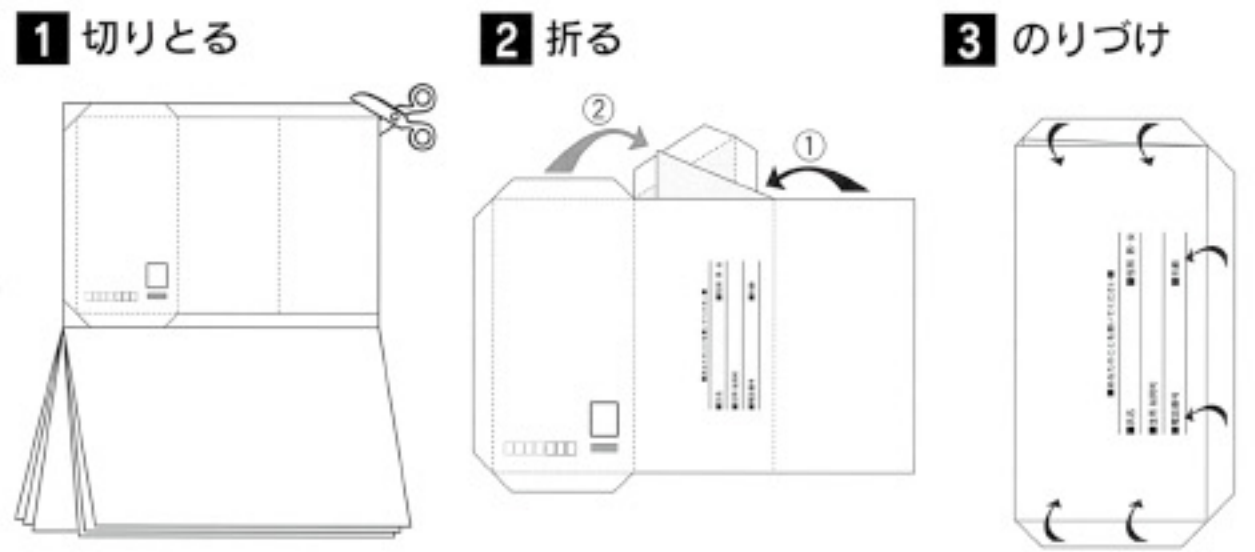


だいじょうぶ!のふくつ魂 No!差別 幸せになるう!

■あなたのことを書いてください■

■名前 _____ ■性別 男・女 _____
 ■住所 福津市 _____
 ■電話番号 _____ ■年齢 _____

※名前と住所は必ず記入してください



封筒はこうして作ってください

